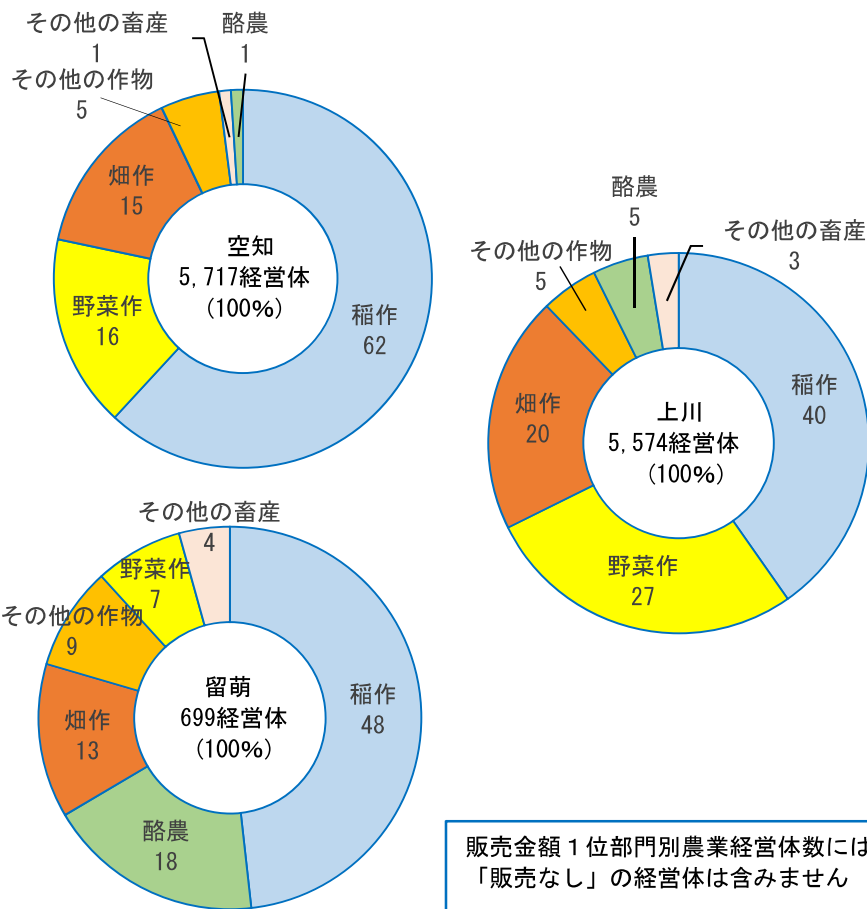


Ⅲ 振興局別の特徴

道央（稲作）地域①：空知、上川、留萌

- ・ 農業経営体数は空知が5,910経営体で最も多く、次いで上川、留萌の順となりました。また、5年前からの減少率は上川が17.6%で最も大きく、次いで留萌、空知の順となりました。（図15）
- ・ 法人化している農業経営体数は空知が最も多く、増加数も空知が最も大きくなりました。（図16）

図14 販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）



販売金額1位部門別農業経営体数には、「販売なし」の経営体は含みません

図15 農業経営体数の推移

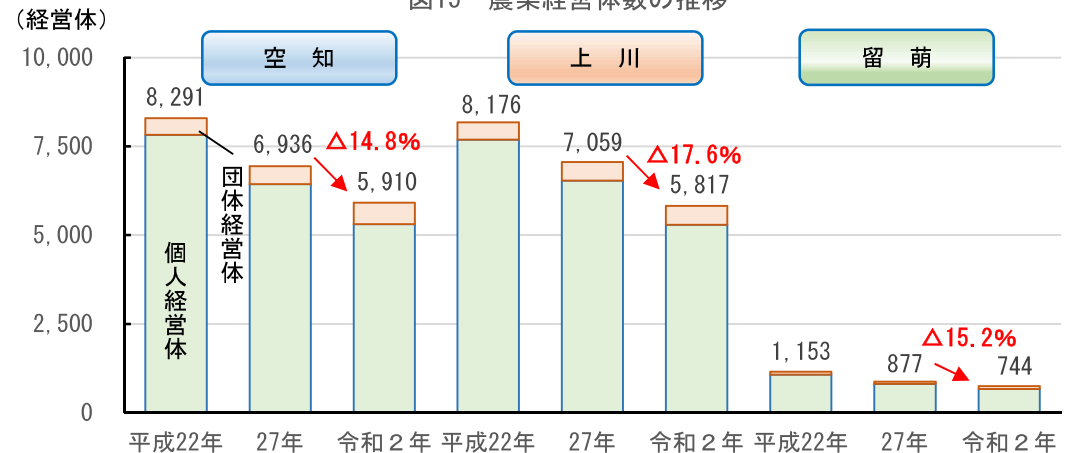
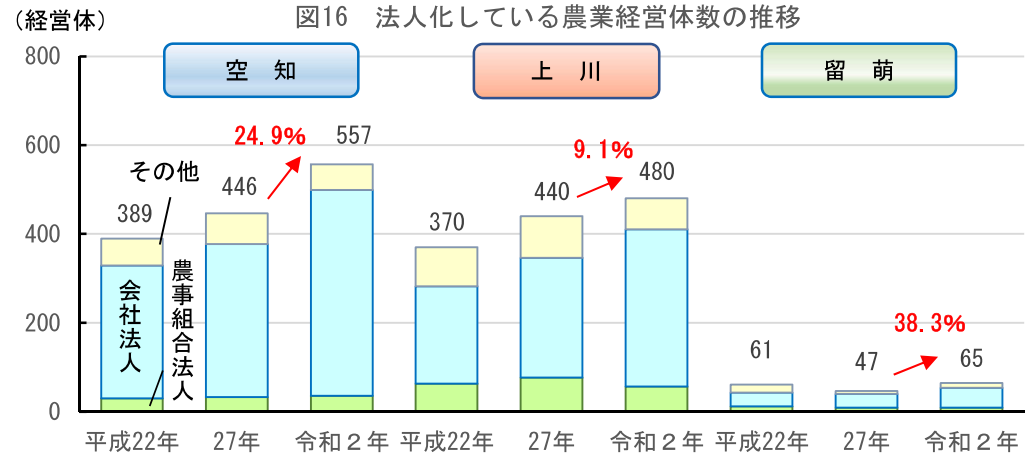


図16 法人化している農業経営体数の推移



道央（稲作）地域②：空知、上川、留萌

- 1 経営体当たり経営耕地面積は留萌が最も大きく、5年前に比べて3振興局ともに増加しました。（図17）
- 農業経営体数を経営耕地面積規模別にみると、3振興局ともに10ha以上が50%以上を占めました。（図18）

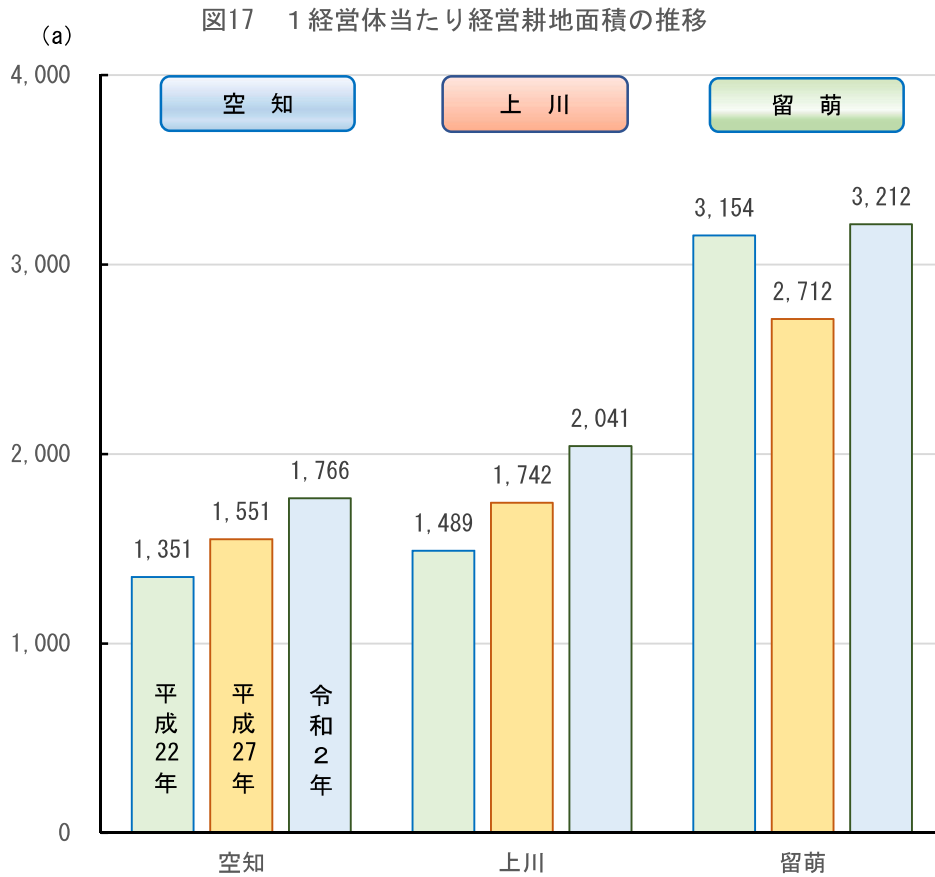
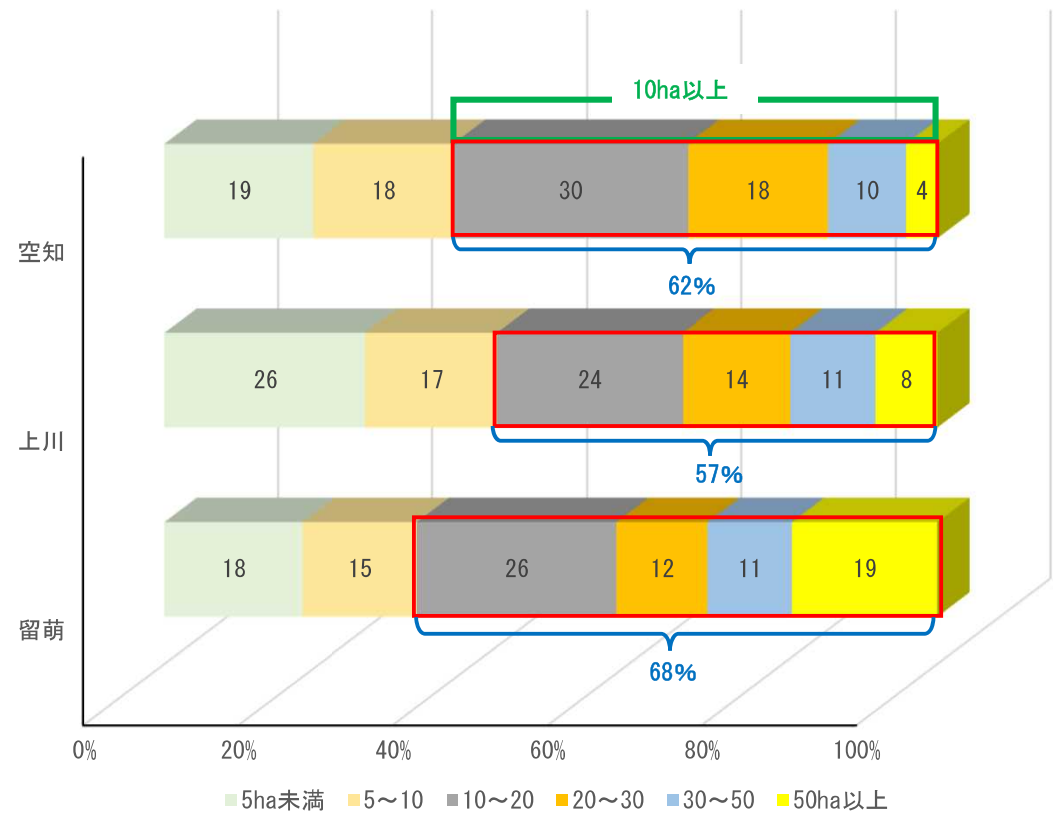


図18 経営耕地面積規模別農業経営体数の割合（令和2年）



注：幌延町については、平成22年は留萌に、平成27年以降は宗谷（P21）に含まれています
幌加内町については、平成22年は空知に、平成27年以降は上川に含まれています

道央（稲作）地域③：空知、上川、留萌

- ・ 基幹的農業従事者数は5年前に比べて3振興局ともに減少しました。また、3振興局ともに平均年齢は上昇しました。（図19）
- ・ 基幹的農業従事者数を年齢別にみると、3振興局ともに60歳代が最も多く、次いで70歳代、50歳代の順になりました。（図20）

図19 基幹的農業従事者数及び平均年齢

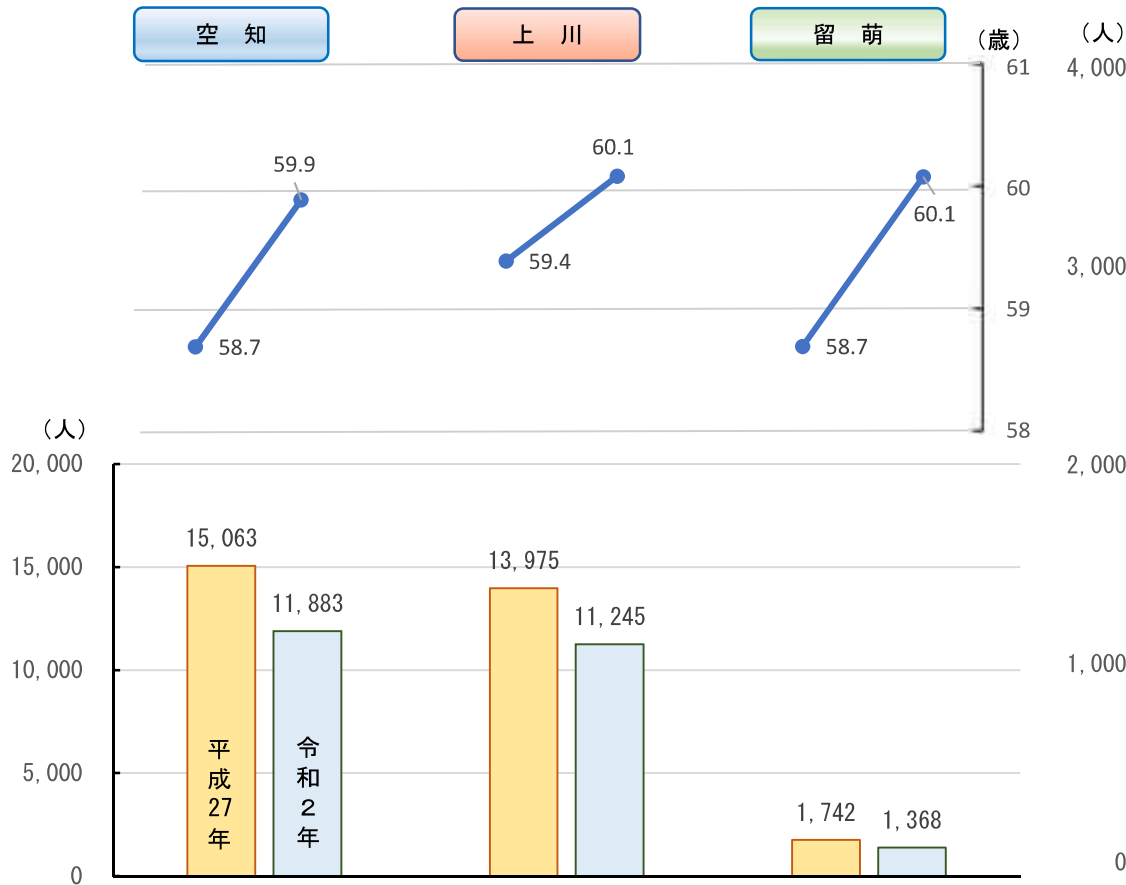
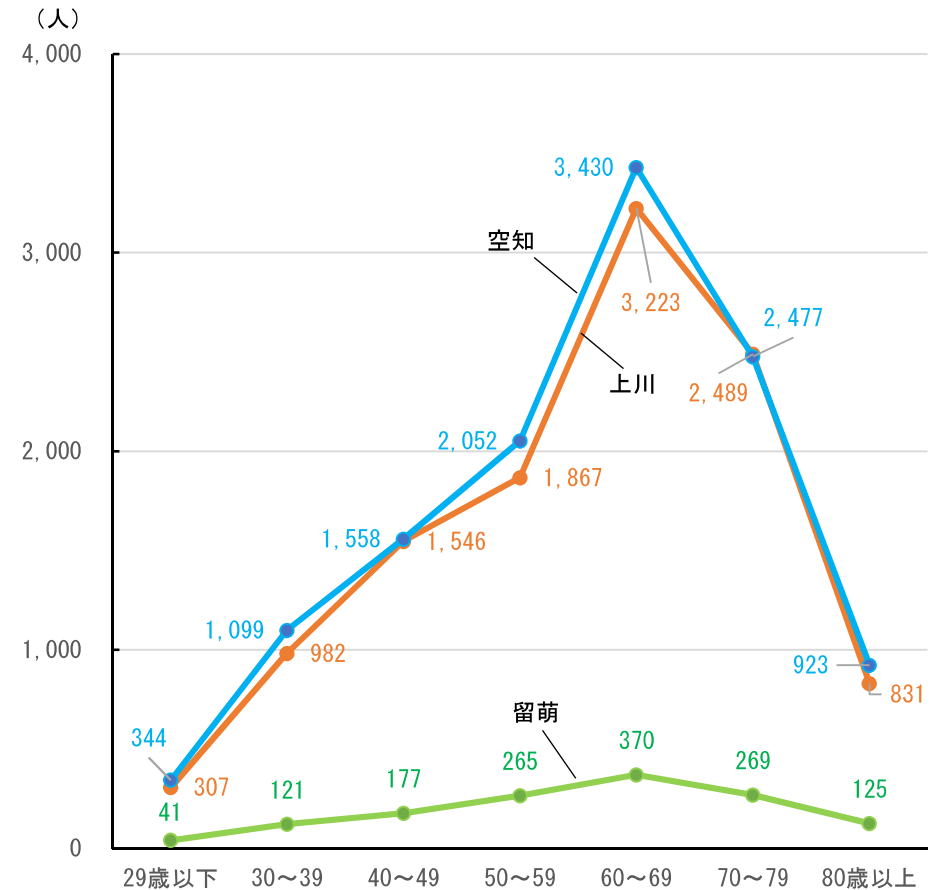


図20 年齢階層別個人経営体の基幹的農業従事者数（令和2年）



注：平成27年は販売農家、令和2年は個人経営体

道央（稲作・野菜）地域①：石狩、胆振／道央（軽種馬）地域①：日高

- ・農業経営体数は石狩が2,175経営体で最も多く、次いで胆振、日高の順となりました。また、5年前からの減少率は日高が17.3%で最も大きく、次いで胆振、石狩の順となりました。（図22）
- ・法人化している農業経営体数は日高が最も多くなりましたが、日高のみ減少しました。（図23）

図21 販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）

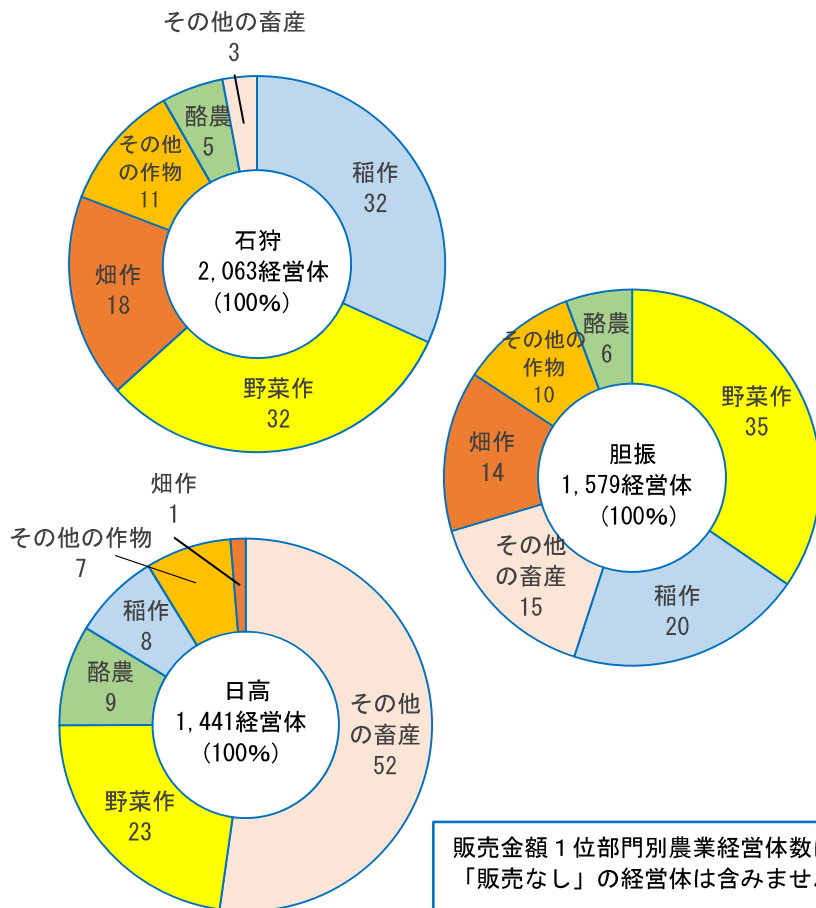


図22 農業経営体数の推移

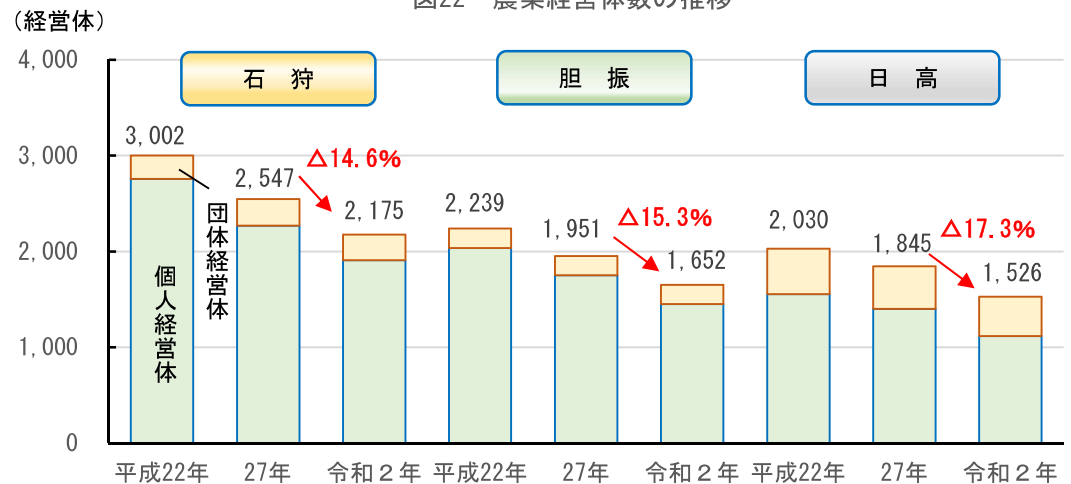
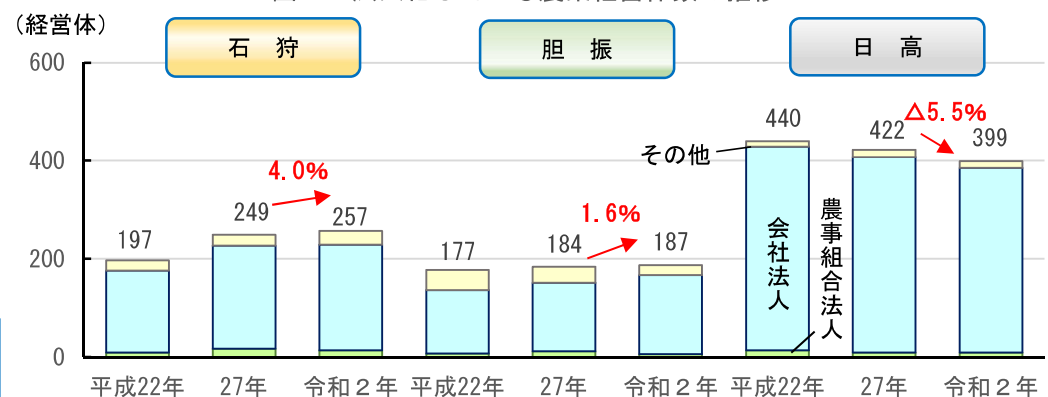


図23 法人化している農業経営体数の推移



道央（稲作・野菜）地域②：石狩、胆振／道央（軽種馬）地域②：日高

- ・ 1経営体当たり経営耕地面積は5年前に比べて3振興局ともに増加しました。（図24）
- ・ 農業経営体数を経営耕地面積規模別にみると、10ha以上が日高、石狩で50%以上を占めました。（図25）

図24 1経営体当たり経営耕地面積の推移

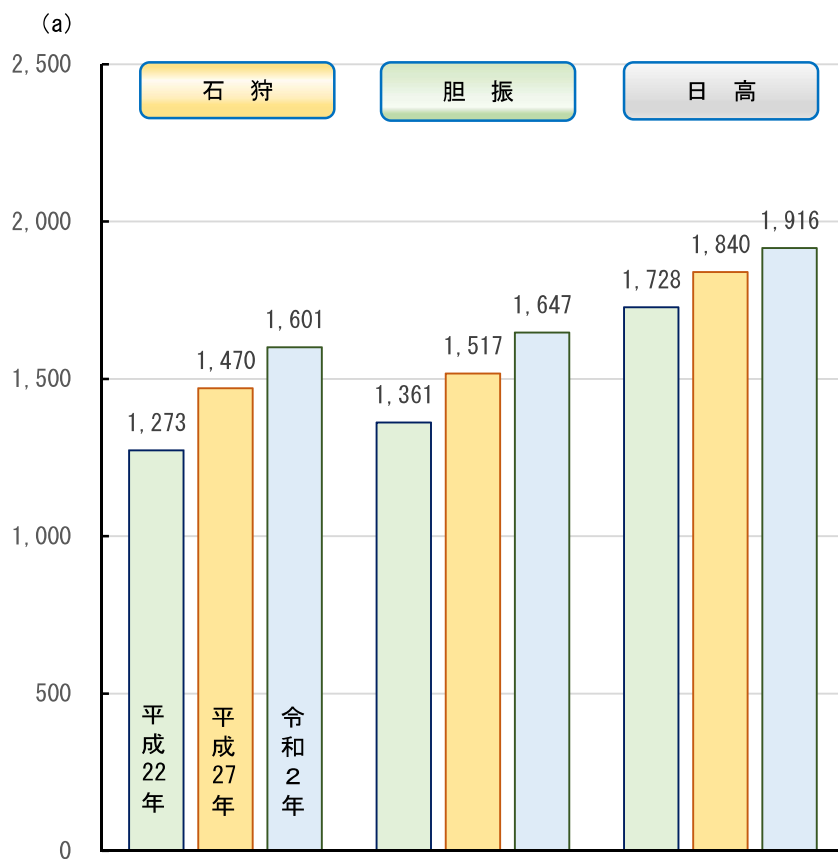
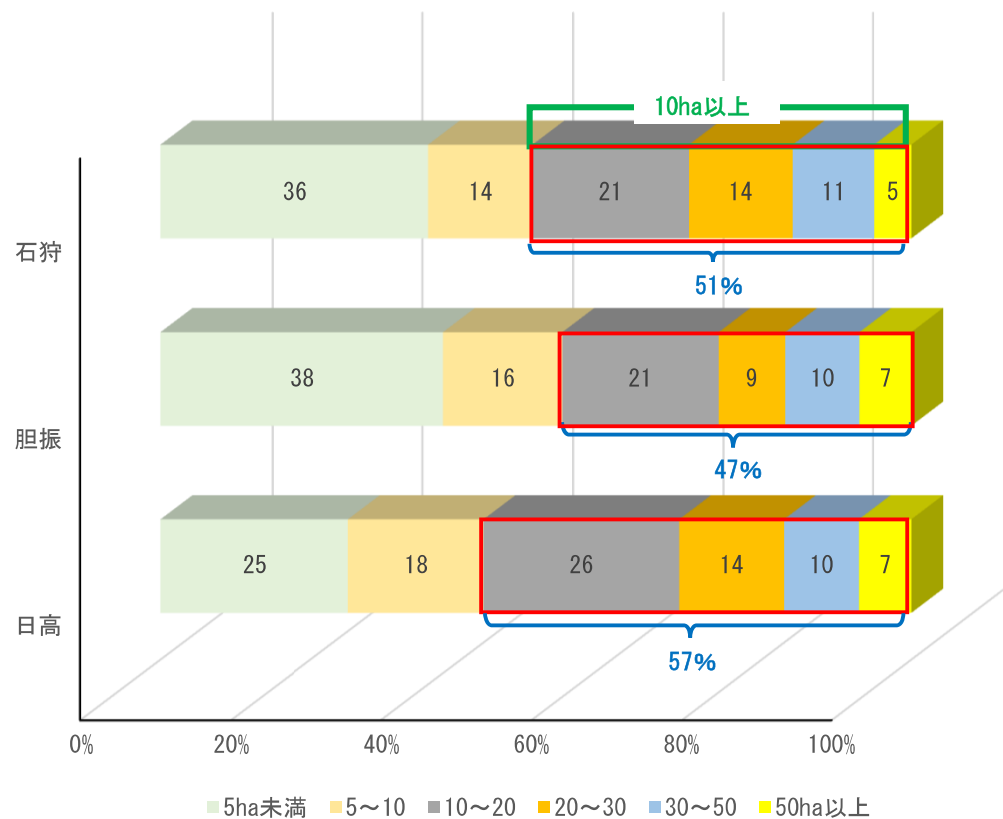


図25 経営耕地面積規模別農業経営体数の割合（令和2年）



道央（稲作・野菜）地域③：石狩、胆振／道央（軽種馬）地域③：日高

- ・ 基幹的農業従事者数は5年前に比べて3振興局ともに減少しました。また、3振興局ともに平均年齢は上昇しました。（図26）
- ・ 基幹的農業従事者数を年齢別にみると、3振興局ともに60歳代が最も多く、次いで70歳代、50歳代の順になりました。（図27）

図26 基幹的農業従事者数及び平均年齢

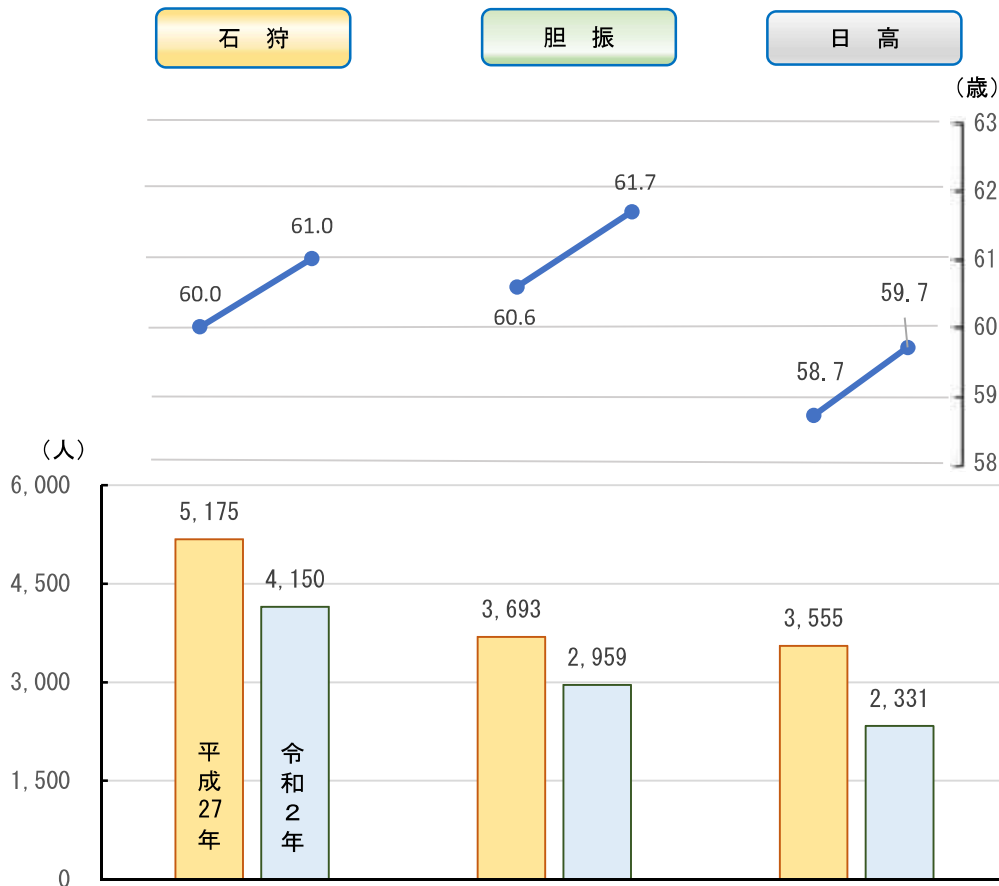
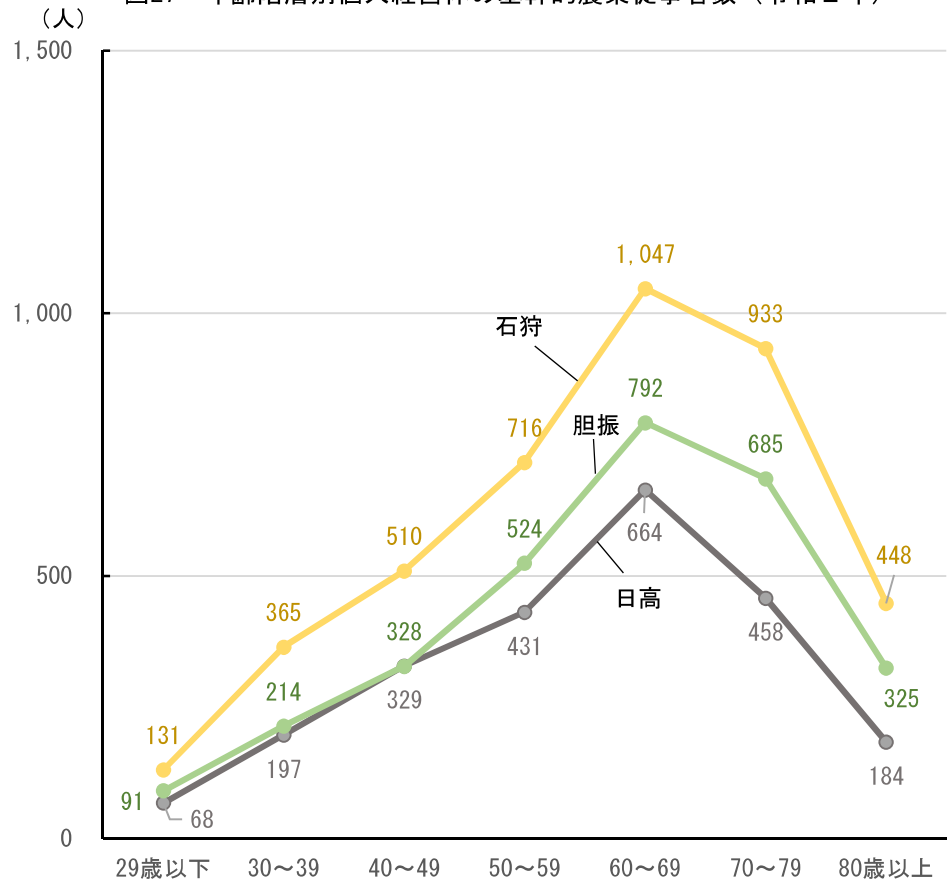


図27 年齢階層別個人経営体の基幹的農業従事者数（令和2年）



注：平成27年は販売農家、令和2年は個人経営体

道南地域①：渡島、檜山、後志

- ・ 農業経営体数は後志が2,203経営体で最も多く、次いで渡島、檜山の順となりました。また、5年前からの減少率は檜山の18.4%が最も大きく、次いで渡島、後志の順となりました。（図29）
- ・ 法人化している農業経営体数は後志が最も多く、5年前からの増加率も最も大きくなりました。（図30）

図28 販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）

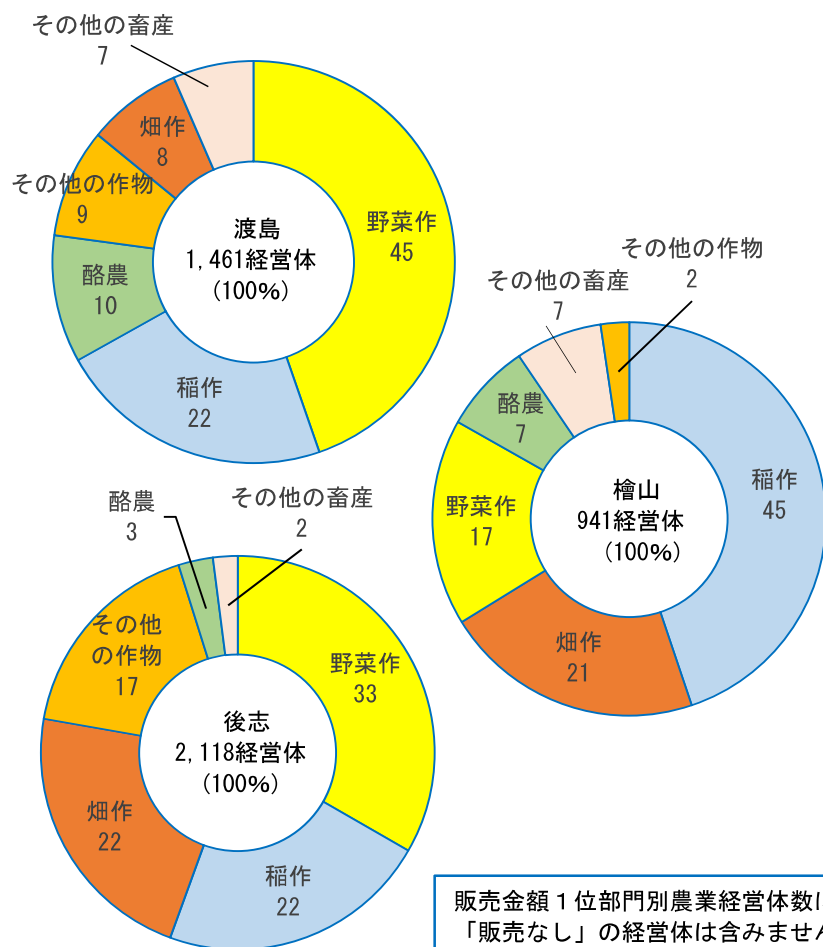


図29 農業経営体数の推移

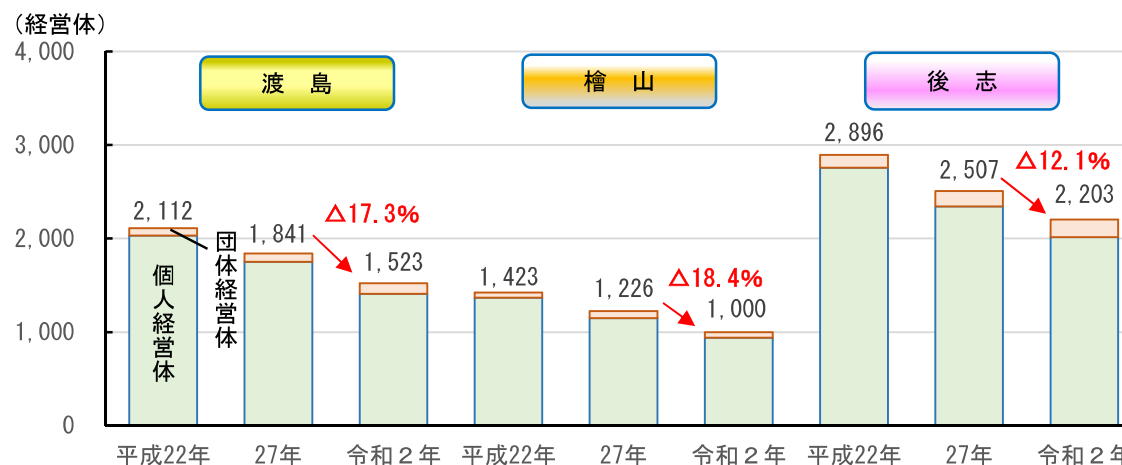
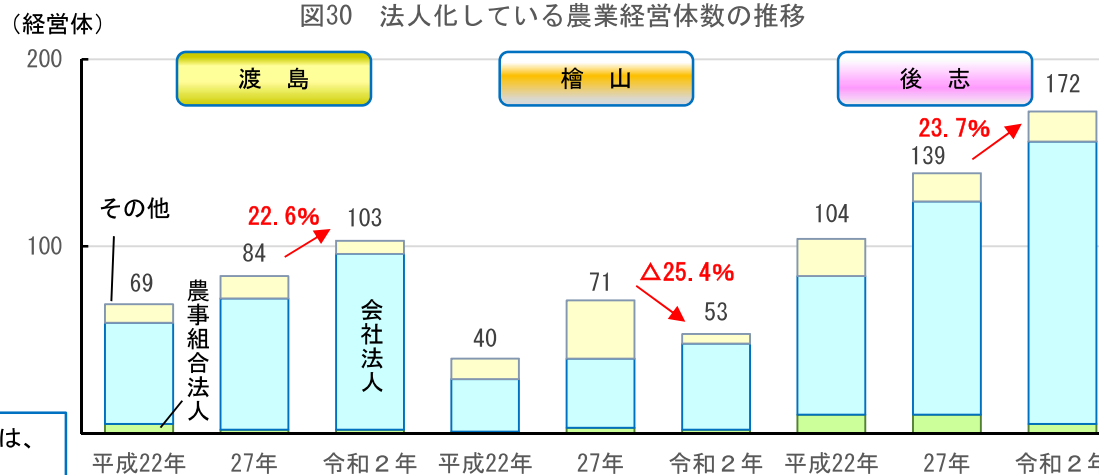


図30 法人化している農業経営体数の推移



道南地域②：渡島、檜山、後志

- ・ 1経営体当たり経営耕地面積は檜山が最も大きく、5年前に比べ3振興局ともに増加しました。（図31）
- ・ 農業経営体数を経営耕地面積規模別にみると、3振興局ともに10ha以上が50%を下回っており、5ha未満が最も多くなりました。（図32）

図31 1経営体当たり経営耕地面積の推移

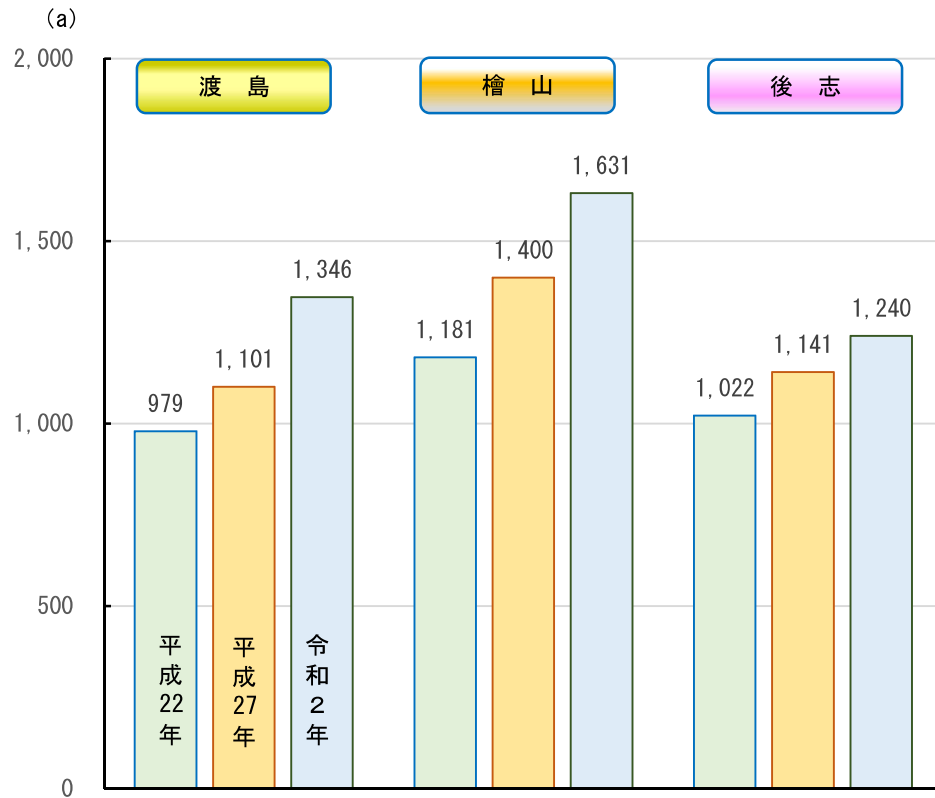
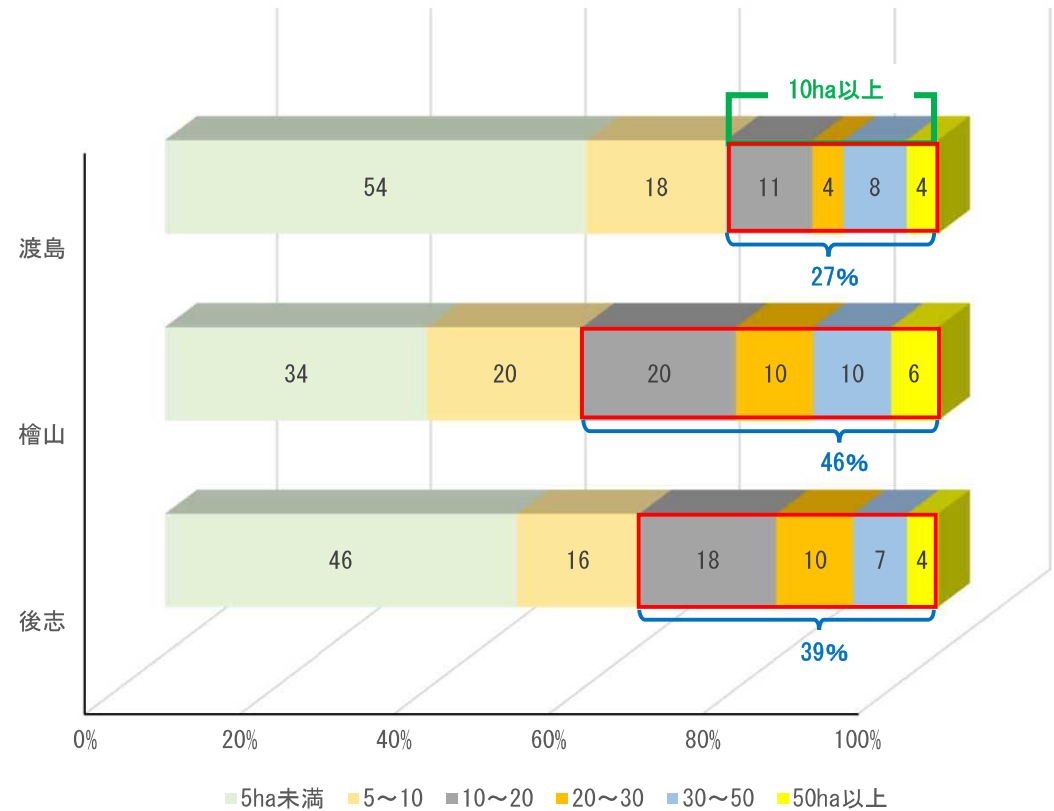


図32 経営耕地面積規模別農業経営体数の割合（令和2年）



道南地域③：渡島、檜山、後志

- ・ 基幹的農業従事者数は5年前に比べて3振興局ともに減少しました。また、3振興局ともに平均年齢は上昇しました。（図33）
- ・ 基幹的農業従事者数を年齢別にみると、3振興局ともに60歳代が最も多く、次いで70歳代、50歳代の順になりました。（図34）

図33 基幹的農業従事者数及び平均年齢

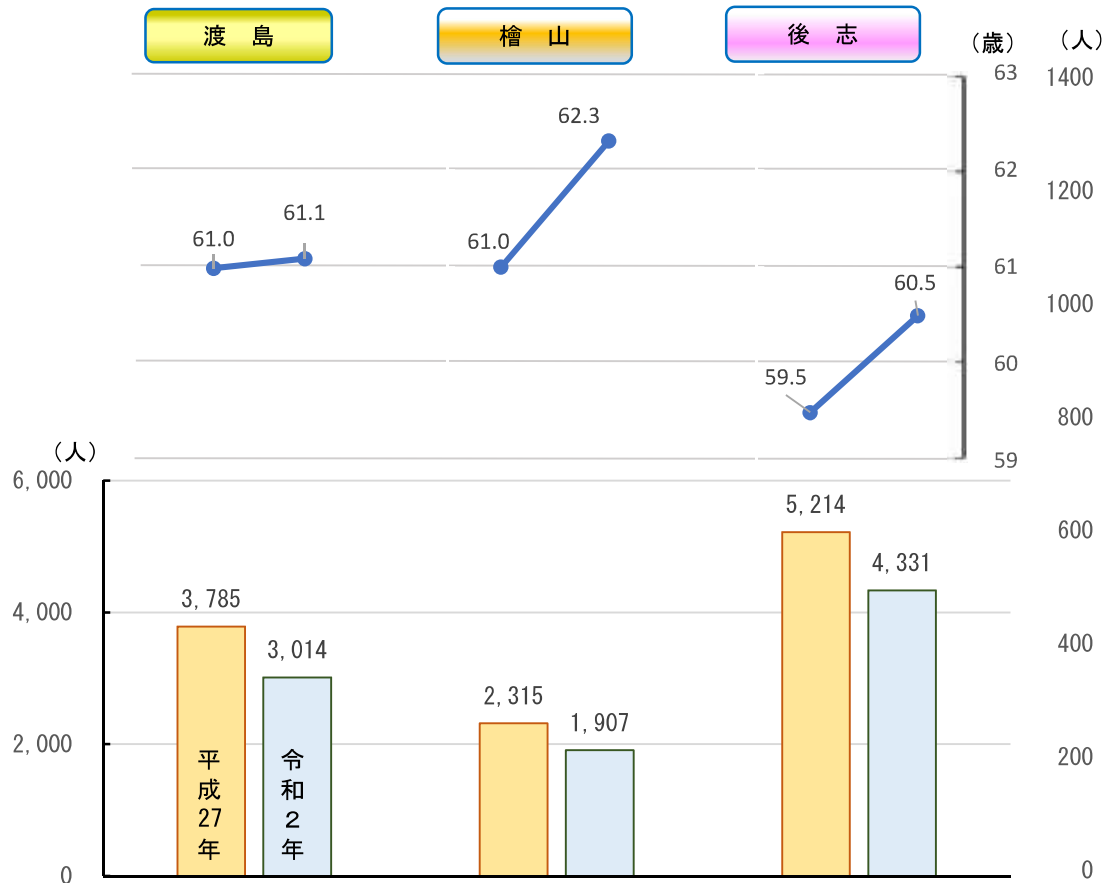
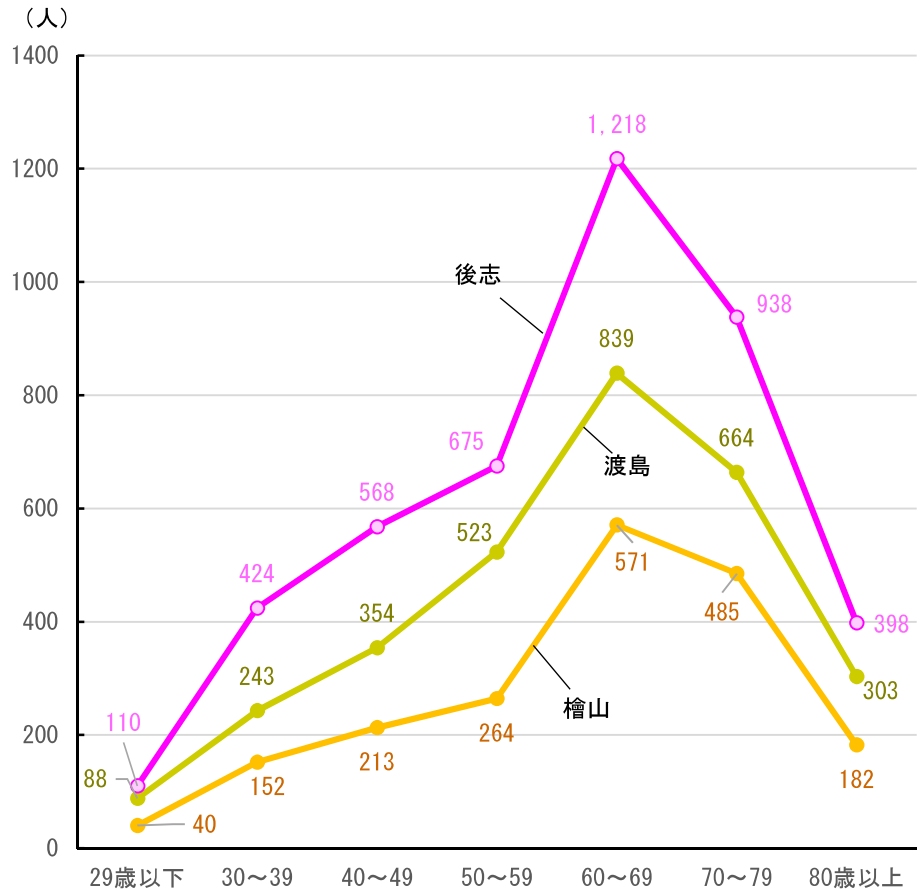


図34 年齢階層別個人経営体の基幹的農業従事者数（令和2年）

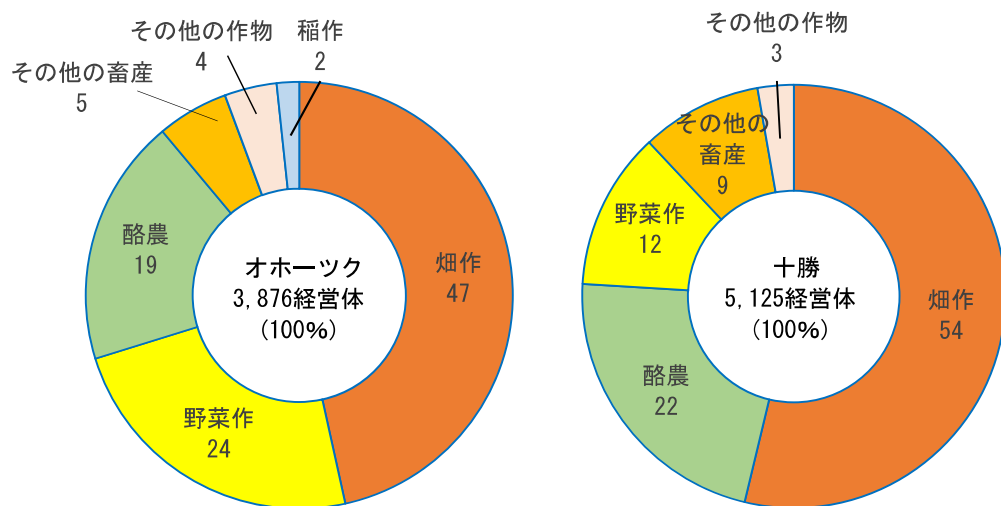


注：平成27年は販売農家、令和2年は個人経営体

道東（畑作）地域①：オホーツク、十勝

- ・ 農業経営体数はオホーツクが3,956経営体、十勝が5,266経営体となりました。また、5年前からの減少率はオホーツクが13.5%、十勝が9.9%となりました。（図36）
- ・ 法人化している農業経営体数は十勝、オホーツクともに増加しました。（図37）

図35 販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）



十勝の稲作は「0%」のため表示していません

販売金額1位部門別農業経営体数には、「販売なし」の経営体は含みません

図36 農業経営体数の推移

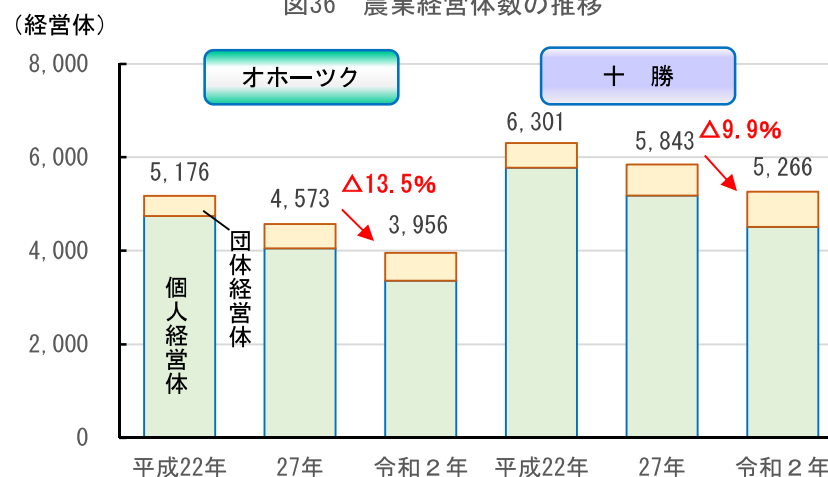
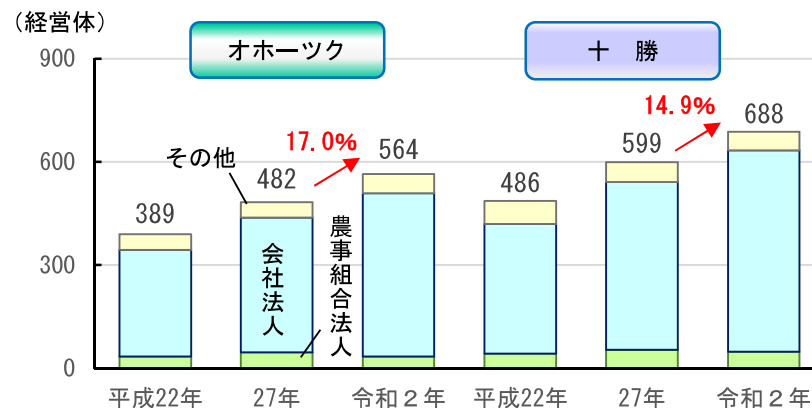


図37 法人化している農業経営体数の推移



道東（畑作）地域②：オホーツク、十勝

- ・ 1経営体当たり経営耕地面積は十勝が46ha、オホーツクが38haとなりました。また、5年前に比べ両振興局ともに増加しました。（図38）
- ・ 農業経営体数を経営耕地面積規模別にみると、両振興局ともに10ha以上が90%を占めていて、30ha以上が50%以上となりました。（図39）

図38 1経営体当たり経営耕地面積の推移

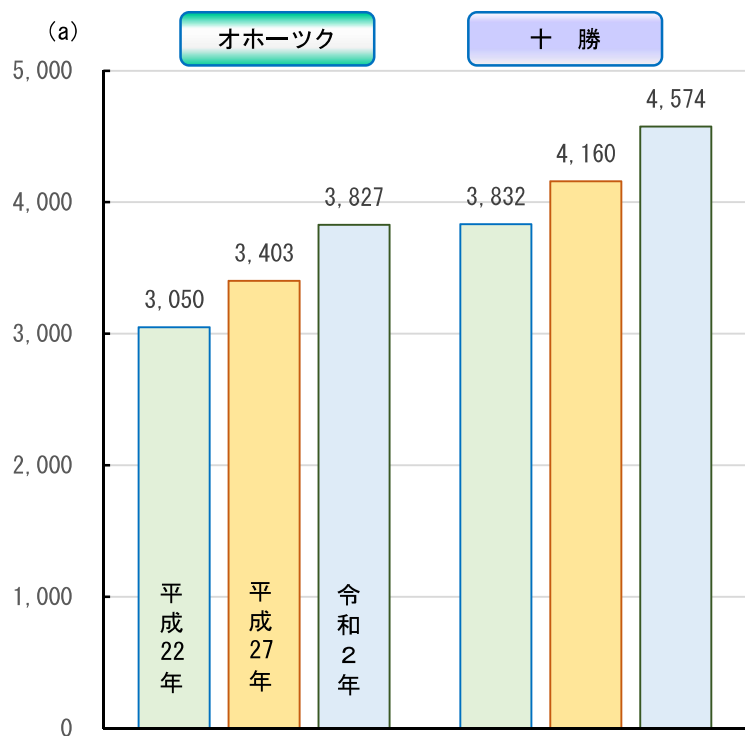
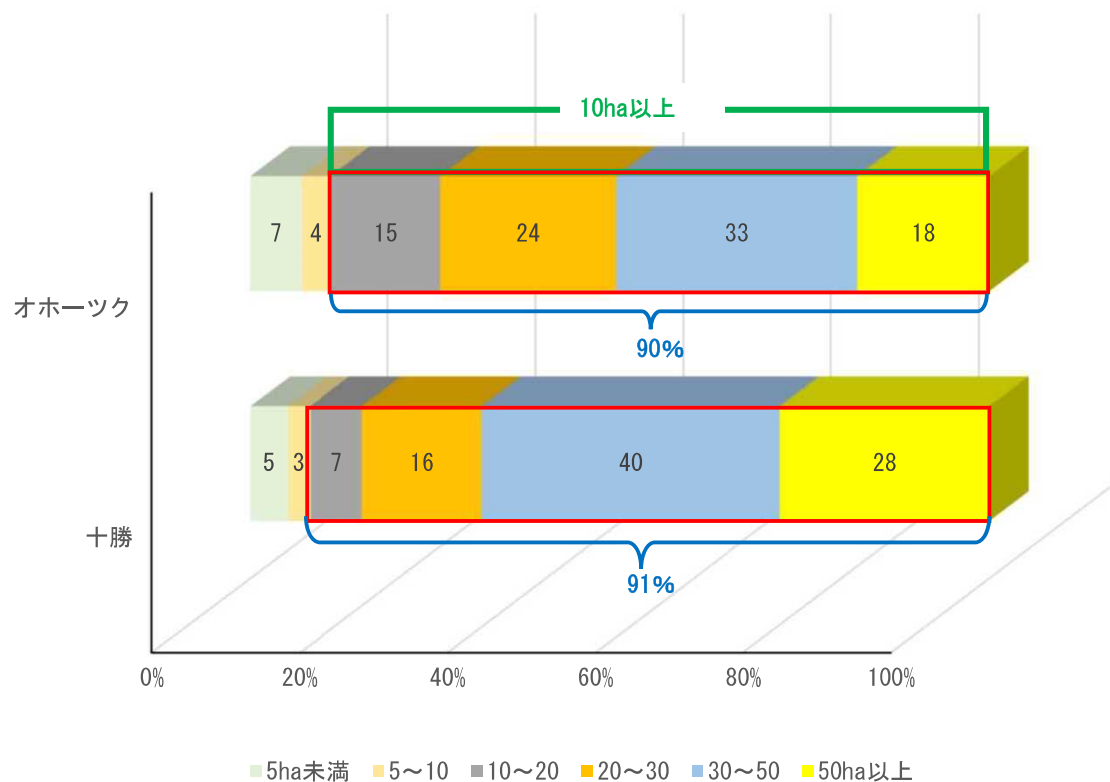


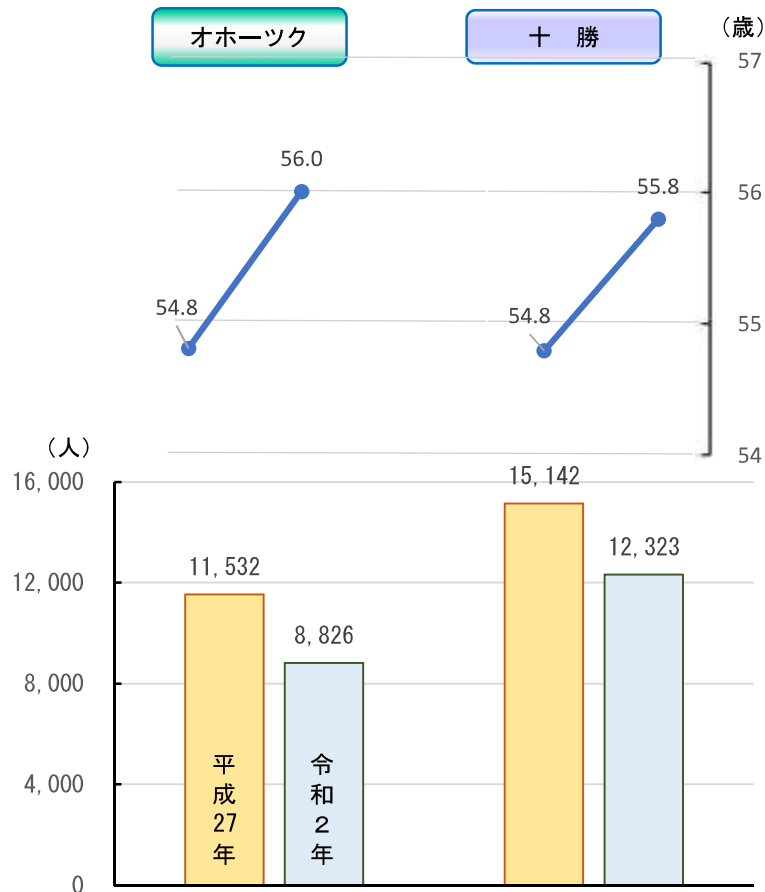
図39 経営耕地面積規模別農業経営体数の割合（令和2年）



道東（畑作）地域③：オホーツク、十勝

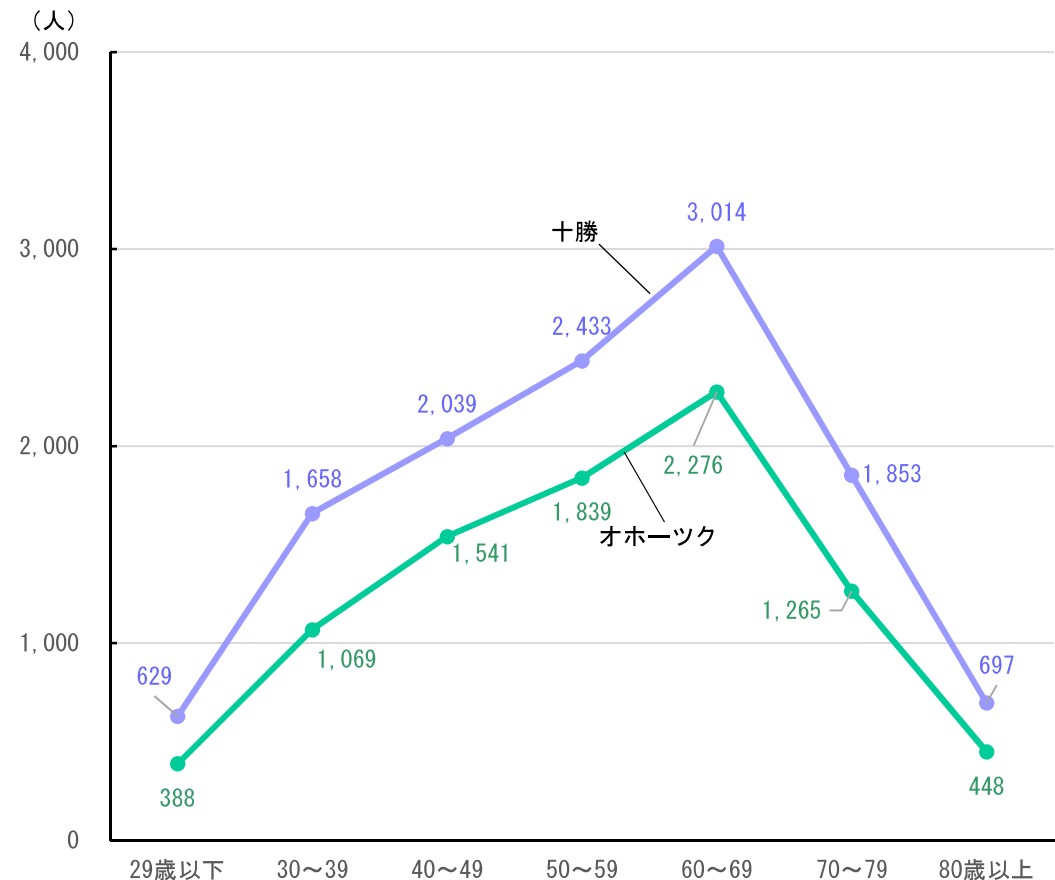
- ・ 基幹的農業従事者数は5年前に比べて両振興局ともに減少しました。また、両振興局ともに平均年齢は上昇しました。（図40）
- ・ 基幹的農業従事者数を年齢別にみると、両振興局ともに60歳代が最も多く、次いで50歳代、40歳代の順となりました。（図41）

図40 基幹的農業従事者数及び平均年齢



注：平成27年は販売農家、令和2年は個人経営体

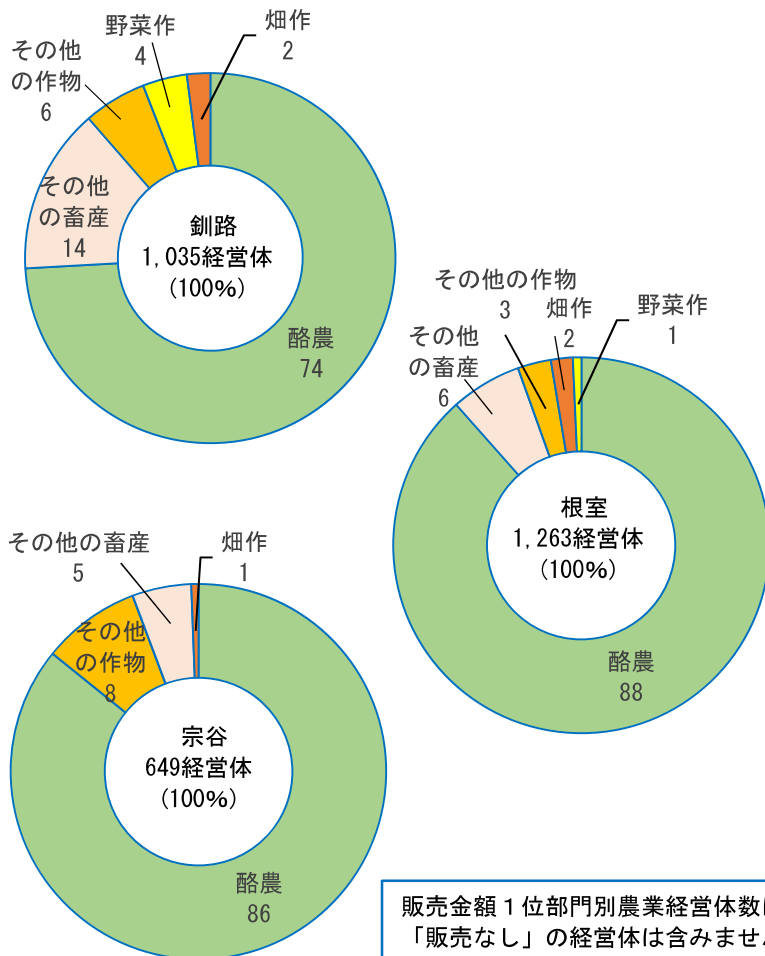
図41 年齢階層別個人経営体の基幹的農業従事者数（令和2年）



道東（酪農）地域①：釧路、根室／道北地域①：宗谷

- ・ 農業経営体数は根室が1,362経営体で最も多く、次いで釧路、宗谷の順となりました。また、5年前からの減少率は釧路が14.3%で最も大きく、次いで宗谷、根室の順となりました。（図43）
- ・ 法人化している農業経営体数は根室が最も多く、5年前からの増加率も最も大きくなりました。（図44）

図42 販売金額1位部門別農業経営体数の構成割合（令和2年）



販売金額1位部門別農業経営体数には、「販売なし」の経営体は含みません

図43 農業経営体数の推移

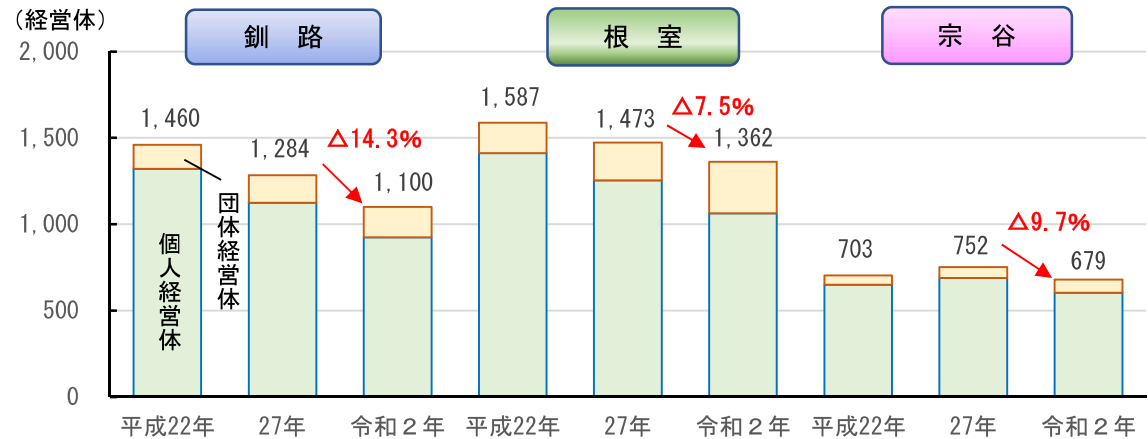
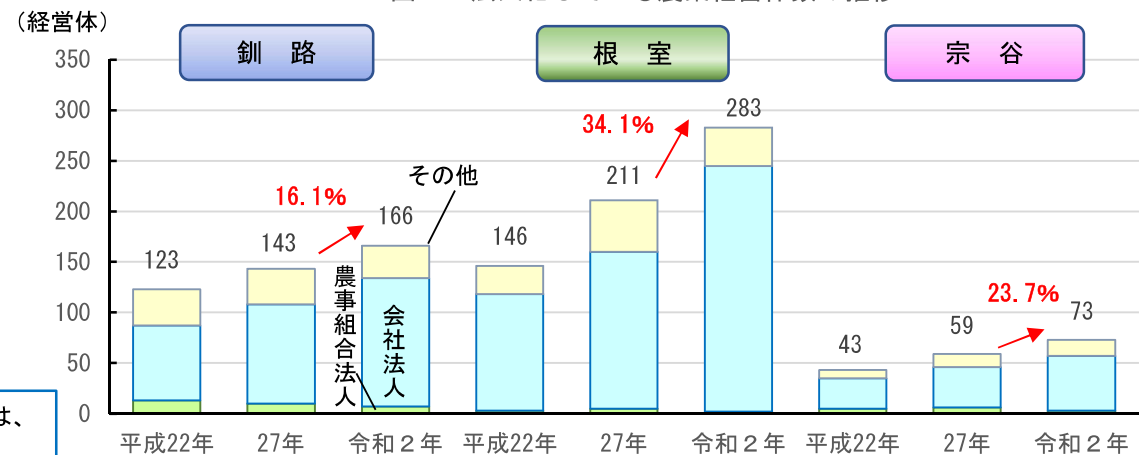


図44 法人化している農業経営体数の推移



道東（酪農）地域②：釧路、根室／道北地域②：宗谷

- ・ 1経営体当たり経営耕地面積は宗谷が最も多く、5年前に比べて3振興局ともに増加しました。（図45）
- ・ 農業経営体数を経営耕地面積規模別にみると、3振興局ともに10ha以上が90%以上となり、根室、宗谷は50ha以上が70%以上となりました。（図46）

図45 1経営体当たり経営耕地面積の推移

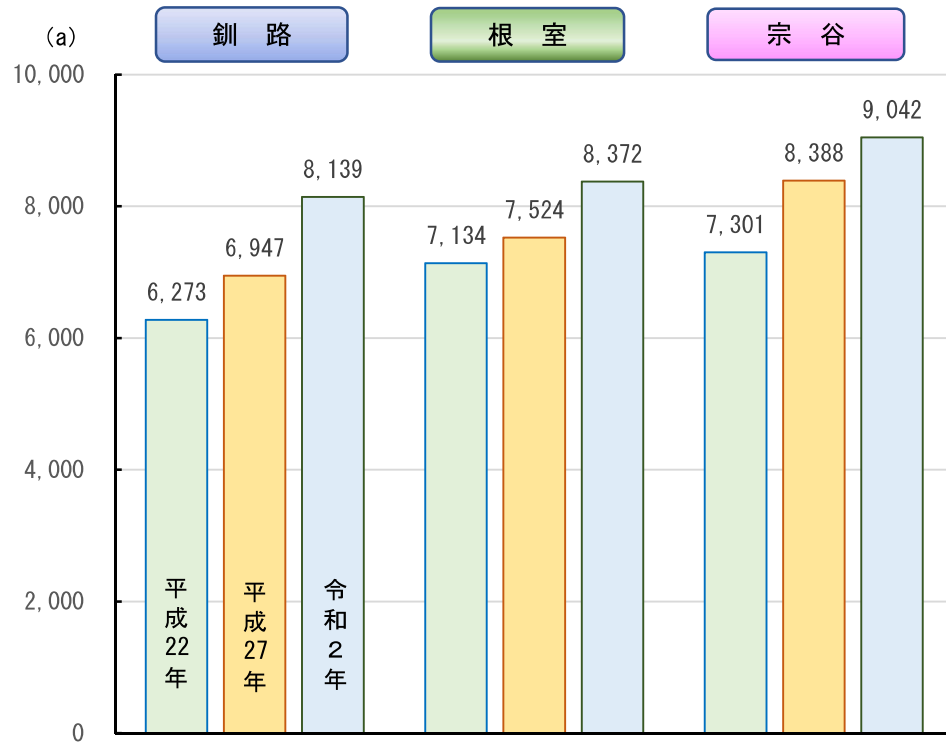
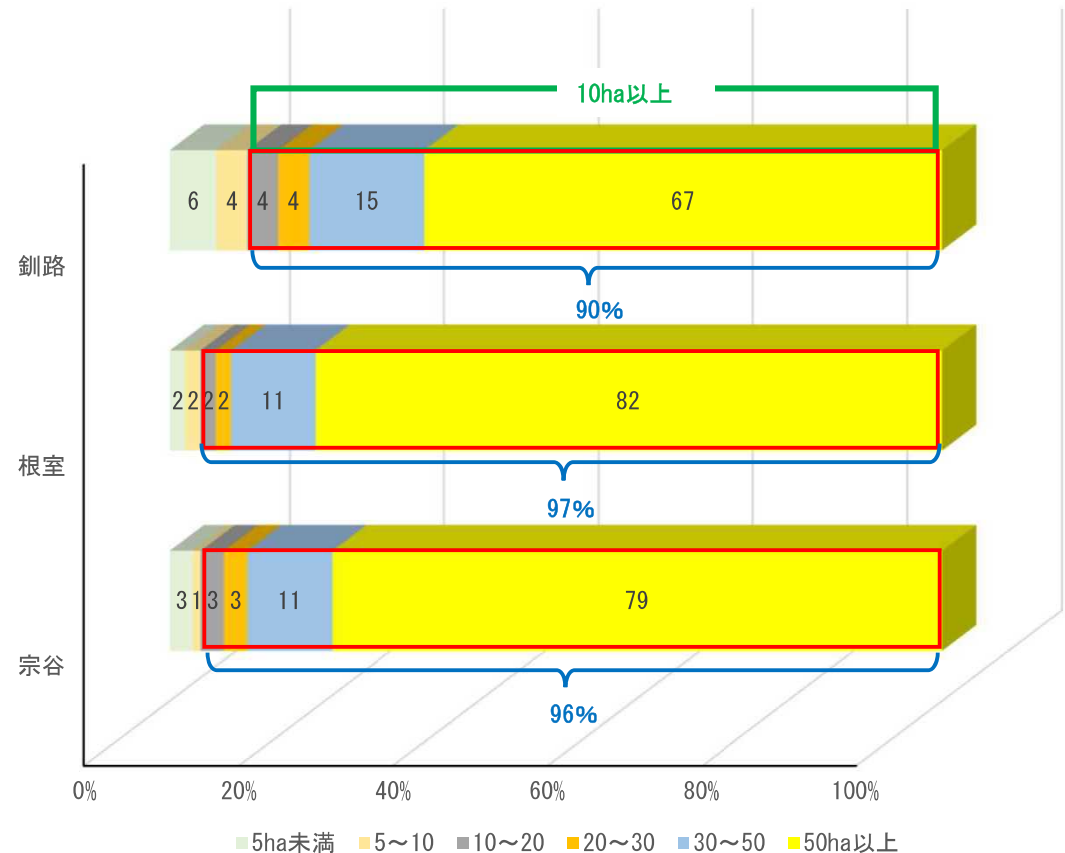


図46 経営耕地面積規模別農業経営体数の割合（令和2年）

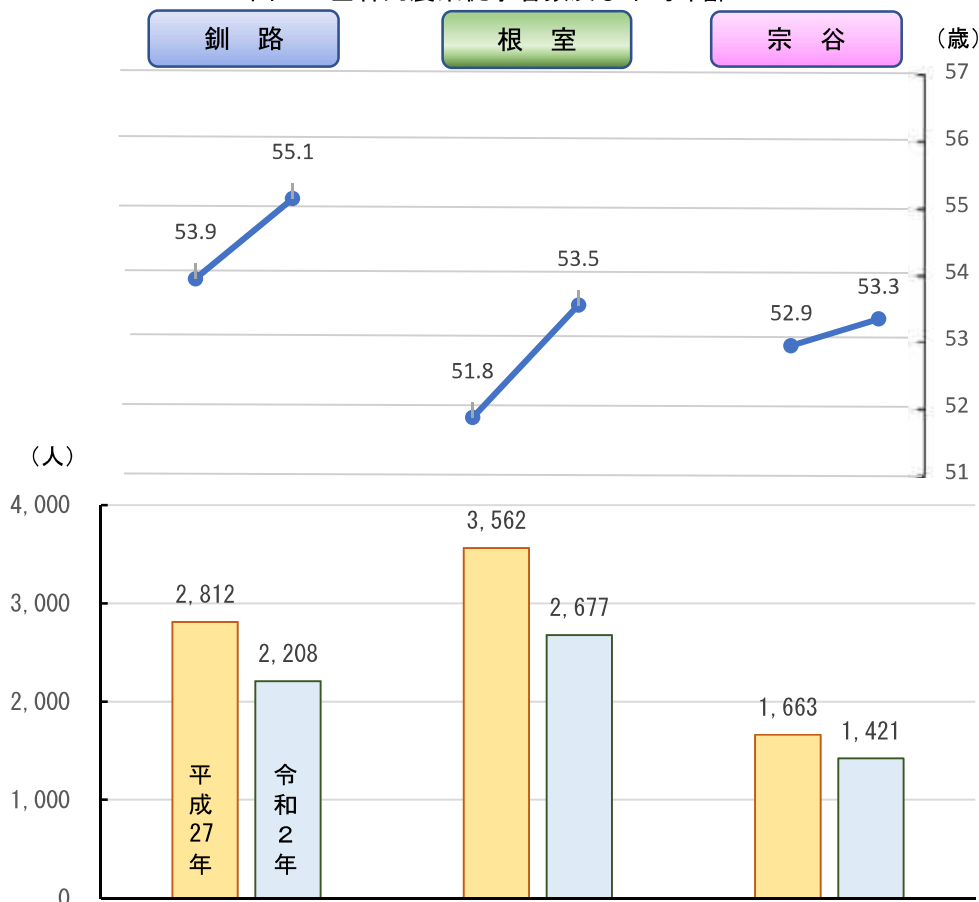


注：幌延町については、平成22年は留萌に、平成27年以降は宗谷に含まれています

道東（酪農）地域③：釧路、根室／道北地域③：宗谷

- ・ 基幹的農業従事者数は5年前に比べて3振興局ともに減少しました。また、3振興局ともに平均年齢は上昇しました。（図47）
- ・ 基幹的農業従事者数を年齢別にみると、3振興局ともに60歳代が最も多く、次いで50歳代又は40歳代が多くなりました。（図48）

図47 基幹的農業従事者数及び平均年齢



注：平成27年は販売農家、令和2年は個人経営体

図48 年齢階層別個人経営体の基幹的農業従事者数（令和2年）

